

CITY OF YOKOHAMA

横浜市における文化芸術・スポーツ 活動に関するウェルビーイング等調査結果



横浜市

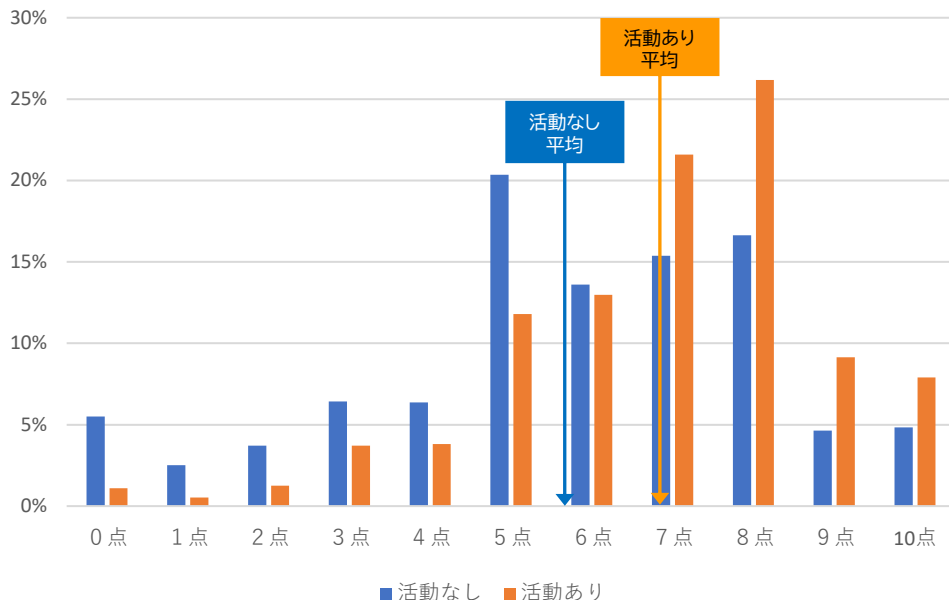
調査概要

調査名	横浜市における文化芸術・スポーツ活動に関するウェルビーイング等調査
調査目的	文化芸術・スポーツ活動とウェルビーイングとの関連や、こどもの頃の体験による活動への影響、地域コミュニティとウェルビーイングとの関連等を検証し、文化芸術創造都市推進施策・スポーツ振興施策における基礎資料とする。
対象	横浜市内在住の16歳以上の男女
サンプル数	3,227人
調査方法	インターネットによるモニター調査
集計方法	本市人口(R7.3末時点)の住民構成比(居住区・年齢・性別)を反映したウェイトバックによる集計 ※集計にあたり、小数点部分を四捨五入して計算しているため、合計値が必ずしも100にならない場合があります。

(仮説)文化芸術・スポーツ活動を継続的に行っている人は、活動をしていない人に比べて、幸福度が高い。
(結果)文化芸術・スポーツのいずれかの活動を継続的に行っている人の幸福度は、平均6.89となり、活動をしていない人の幸福度の平均5.66を上回った。活動の種類が増えると、幸福度も上昇し、文化芸術・スポーツ活動を継続的に行っている人はそうでない人に比べて幸福度が高いと言える。

○活動の有無と幸福度の点数

N=3225



○活動形態の合計個数（文化芸術（①鑑賞・②活動）、スポーツ（③観戦・④活動・⑤支援））ごとの幸福度の平均点

活動形態の合計個数	1	2	3	4	5
平均点	6.46	6.88	7.11	7.32	7.89

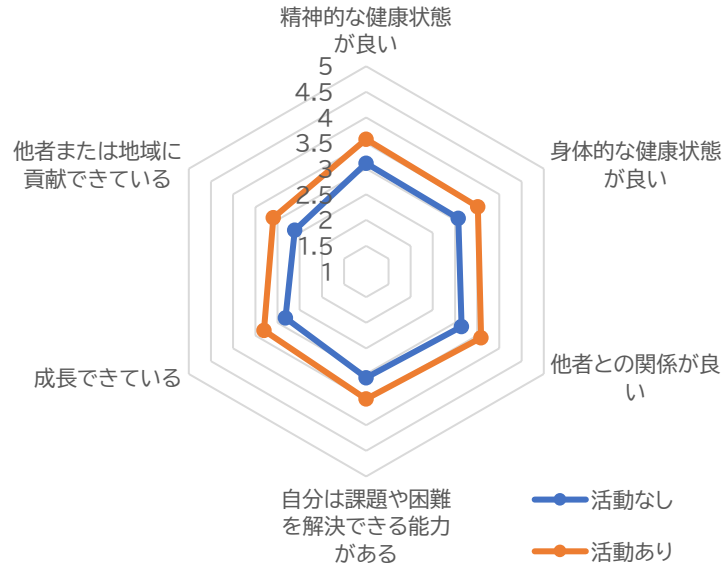
○幸福度について

・設問：現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。
 ・本項目は、デジタル庁が公開している「地域幸福度(Well-Being)指標」と同じ設問を設定しており、10(とても幸せ)～0(とても不幸)の11段階で評価。

(仮説)文化芸術・スポーツ活動を継続的に行っている人は、活動をしていない人に比べて、幸福度が高い。
(結果)ウェルビーイングの構成要素(WB要素)について、文化芸術・スポーツのいずれかの活動を継続的に行っている人は、すべての項目で活動をしていない人の点数を上回り、WB要素についても高いと言える。特に、「成長できている」・「他者または地域に貢献できている」の項目では、中間点以下の2点台から中間点以上の3点台に上昇し、また他の項目に比べても若干ではあるが差が大きく、活動の影響があることが推測される。

○活動の有無と各項目の点数

N=3225



	活動している人	活動していない人	差
精神的な健康状態が良い	3.58	3.11	+0.47
身体的な健康状態が良い	3.51	3.07	+0.44
他者との関係が良い	3.59	3.15	+0.44
自分は課題や困難を解決できる能力がある	3.49	3.07	+0.42
成長できている	3.31	2.82	+0.48
他者または地域に貢献できている	3.10	2.61	+0.49

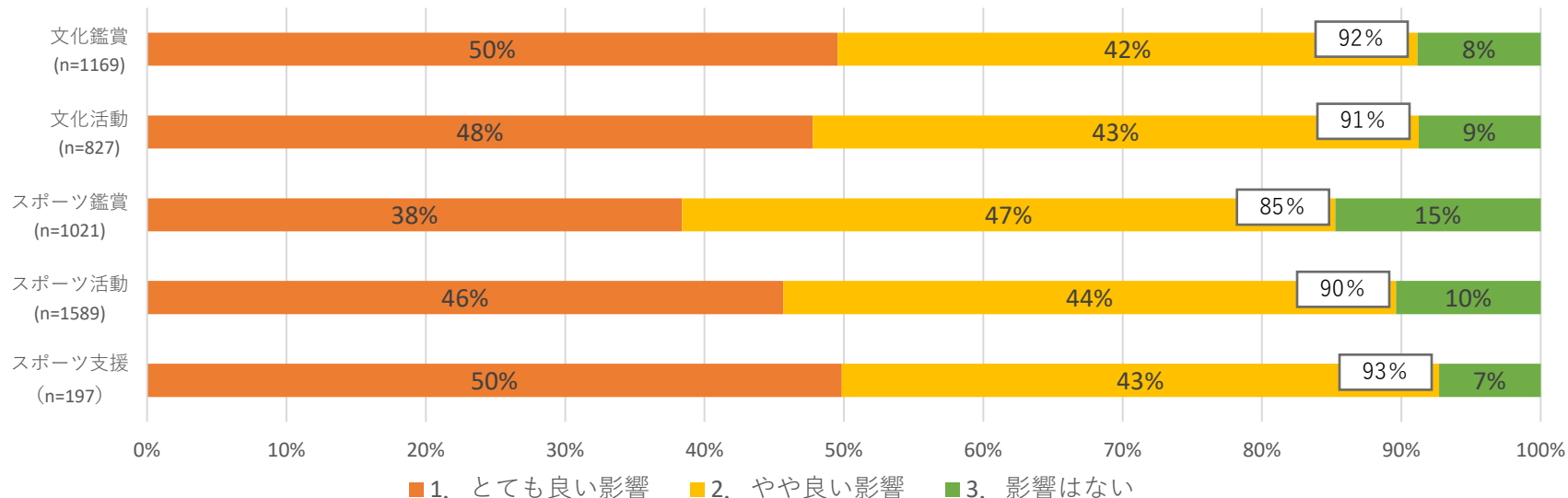
ウェルビーイングの構成要素

- 精神的な健康状態が良い
- 身体的な健康状態が良い
- 他者との関係が良い
- 自分は課題や困難を解決できる能力がある
- 成長できている
- 他者または地域に貢献できている

(仮説)文化芸術・スポーツ活動を継続的に行っている人のなかで、多数の人(8割以上)が活動が幸福度に良い影響があると考えている。

(結果)定期的に活動を行っている人に対し、文化芸術・スポーツ活動が幸福度に「とても良い影響がある」「やや良い影響がある」と回答した人は89%となり、文化芸術・スポーツ活動を継続的に行っている多数の人が、活動が幸福度に良い影響があると考えていると言える。

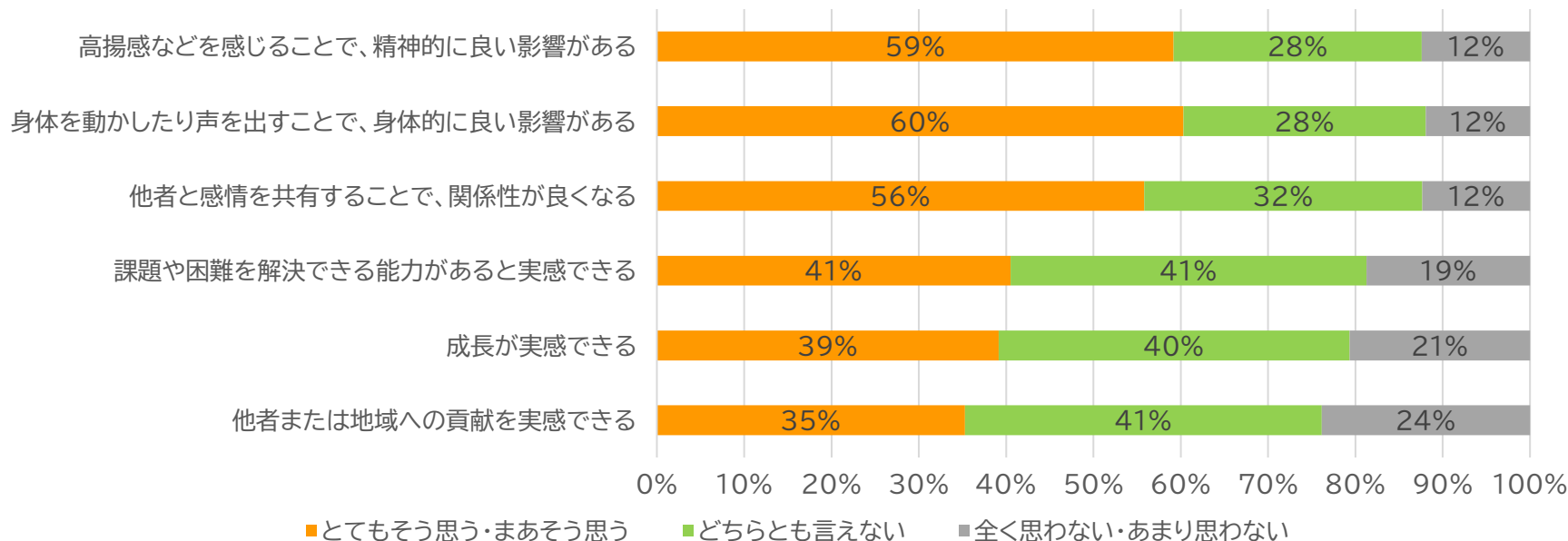
○ここ1年の間に定期的に行っている文化芸術・スポーツ活動は、あなたの幸福度にどの程度良い影響を与えていますか。



(仮説)文化芸術・スポーツ活動がウェルビーイングを構成するWB要素に寄与するという意識を、活動していない人も含め多数の人(7割以上)が持っている。

(結果)文化芸術・スポーツ活動が各項目への効果に対し「とてもそう思う・まあそう思う」と回答した全体の割合は平均で48%であった。個別の項目では、**精神的・身体的に良い影響、他者との関係性が良くなる**と回答した割合は60%に近く、課題解決能力の実感、成長の実感、他者・地域への貢献では35~40%であった。

文化芸術・スポーツ活動を行うことで、あなた自身にどのような効果があると思いますか。実際の活動の有無に関わらずお答えください。 N=3225



(仮説)文化芸術・スポーツ活動がWB要素に寄与するという意識が高い人は、低い人よりも継続的に活動をしている。(継続的に活動をしている人のほうが、活動がWB要素に寄与するという意識が高い)
 (結果)いずれかの活動を行っている人は、活動を行っていない人よりも、活動がWB要素に寄与するという割合が高かったため、活動がWB要素に寄与するという意識が高い人のほうが継続的に活動をしている。(活動への意識と継続的な活動には相関関係がある)と言える。特に、活動を行っている人と行っていない人で精神的・身体的な良い影響に対して差が大きかった。

○各活動に対するWB要素への効果の平均点

N=3225

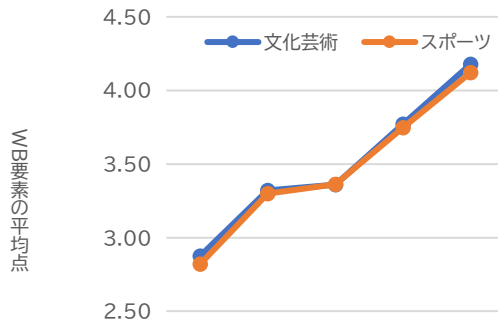


	活動している人	活動していない人	差
(やすらぎや高揚感などを感じることで、精神的に良い影響がある)	3.73	3.18	+0.55
(身体を動かしたり声を出すことで、身体的に良い影響がある)	3.76	3.26	+0.50
他者と感情を共有することで、関係性が良くなる	3.67	3.20	+0.47
課題や困難を解決できる能力があると実感できる	3.39	2.97	+0.42
成長が実感できる	3.35	2.90	+0.45
他者または地域への貢献を実感できる	3.23	2.84	+0.39

(仮説) ①地域コミュニティ等による活動の充実度、②地域のイベント・学ぶ場の機会の充実度、③自宅から施設までの距離、④幼少期成長期の文化芸術・スポーツ体験の有無。これらが、文化芸術・スポーツ活動がWB要素に寄与するという意識と相関している。

(結果) ①②においては、充実しているほど、WB要素の点数が高い傾向が見られたことから、地域コミュニティ等による活動、地域のイベント・学ぶ場の機会の充実がWB要素に寄与しているという意識と相関していると言える。一方、③において明確な関係性は見られなかった。

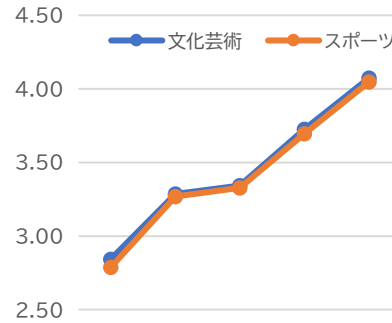
①地域コミュニティ N=3225



	充実していないと思う	あまり充実していないと思う	どちらとも言えない	まあ充実していると思う	充実していると思う
文化芸術	2.88	3.32	3.36	3.77	4.18
スポーツ	2.82	3.30	3.36	3.75	4.12

文化芸術	2.88	3.32	3.36	3.77	4.18
スポーツ	2.82	3.30	3.36	3.75	4.12

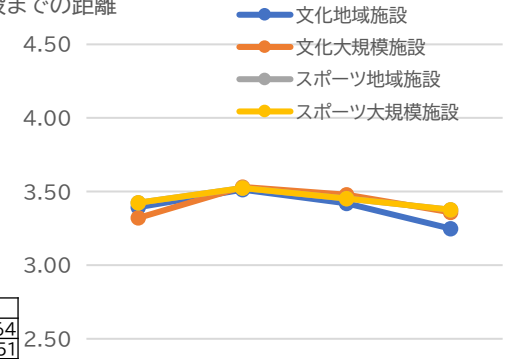
②機会の充実 N=3225



	充実していないと思う	あまり充実していないと思う	どちらとも言えない	まあ充実していると思う	充実していると思う
文化芸術	2.84	3.29	3.34	3.73	4.07
スポーツ	2.79	3.27	3.33	3.70	4.05

文化芸術	2.84	3.29	3.34	3.73	4.07
スポーツ	2.79	3.27	3.33	3.70	4.05

③自宅から施設までの距離



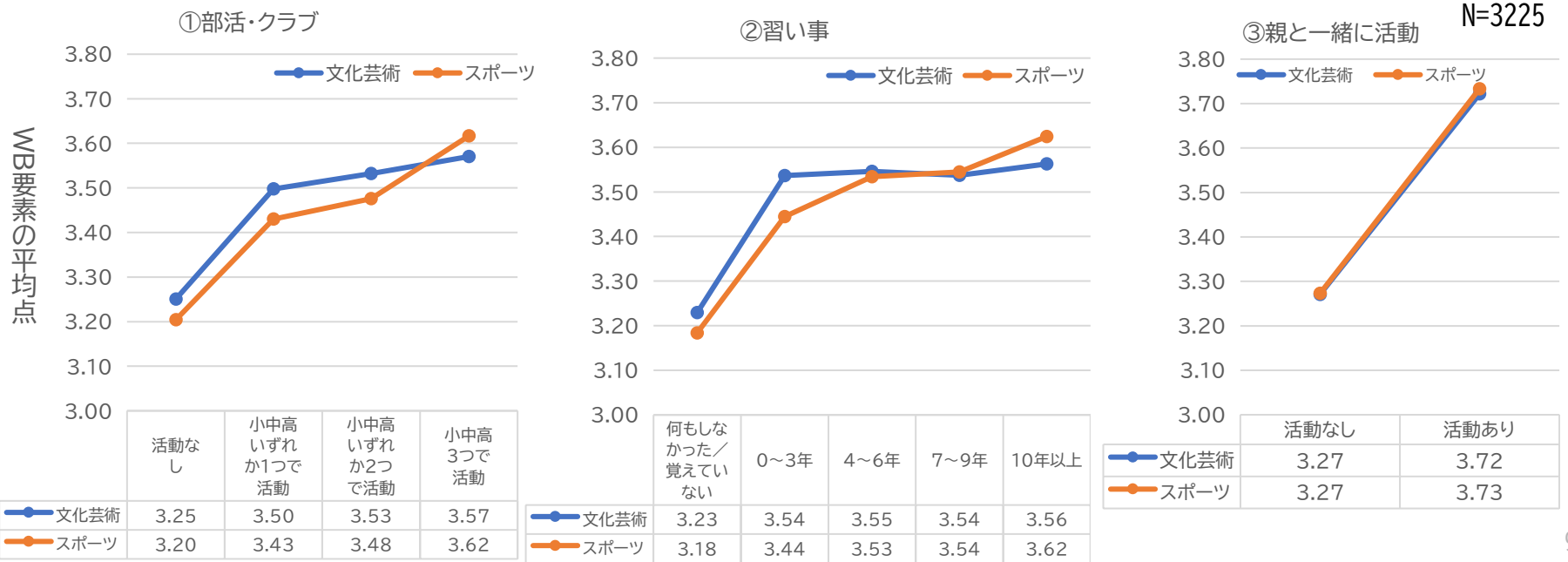
	n
文化地域	2464
文化大規模	2451
スポ地域	2423
スポ大規模	2492

※わからない除く

	10分未満	30分未満	1時間未満	1時間以上
文化地域施設	3.40	3.51	3.42	3.25
文化大規模施設	3.32	3.53	3.48	3.36
スポーツ地域施設	3.42	3.52	3.45	3.38
スポーツ大規模施設	3.42	3.52	3.45	3.38

(仮説) 地域コミュニティ等による活動の充実度、地域のイベント・学ぶ場の機会の充実度、自宅から施設までの距離、**幼少期成長期の文化芸術・スポーツ体験(①部活・クラブ、②習い事、③親と一緒に活動)の有無**。これらが、文化芸術・スポーツ活動がWB要素に寄与するという意識と相関している。

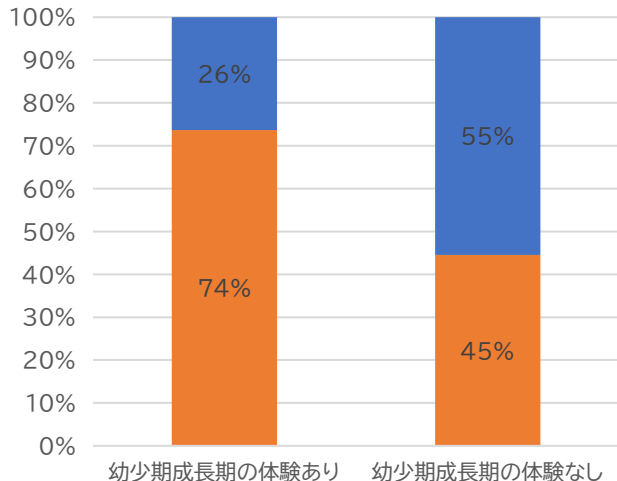
(結果) 幼少期成長期におけるいずれの活動においても、活動をしていない場合より、活動を行っている方がWB要素への意識が高い傾向が見られたことから、**幼少期成長期の活動の有無がWB要素に寄与しているという意識と相関していると言える**。特に③において、活動有無による差が大きかった。



(仮説)地域コミュニティ等による活動の充実度、地域のイベント・学ぶ場の機会の充実度、自宅から施設までの距離、幼少期成長期の文化芸術・スポーツ体験(①部活・クラブ、②習い事、③親と一緒に活動)の有無。これらが文化芸術・スポーツ活動がWB要素に寄与するという意識と相関している。(派生:幼少期成長期に文化芸術・スポーツ体験(①部活・クラブ、②習い事、③親と一緒に活動)をした場合に、現在の活動に影響がある)

(結果)幼少期成長期の体験があると、現在活動を行っている割合が29%高くなった。前頁と合わせて、幼少期成長期の活動の有無がWB要素に寄与しているという意識と相関しており、その後に活動する割合も高くなると言える。

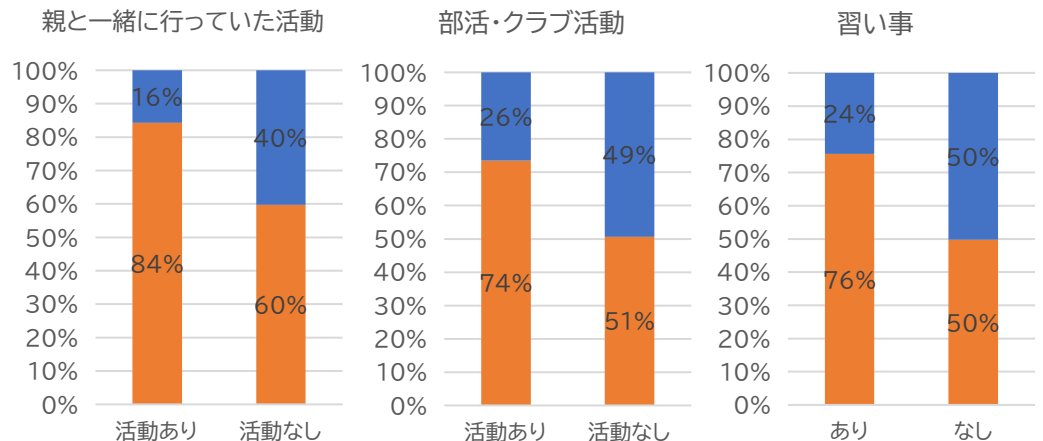
幼少期成長期の体験と現在の活動



■現在の活動あり ■現在の活動なし

N=3225

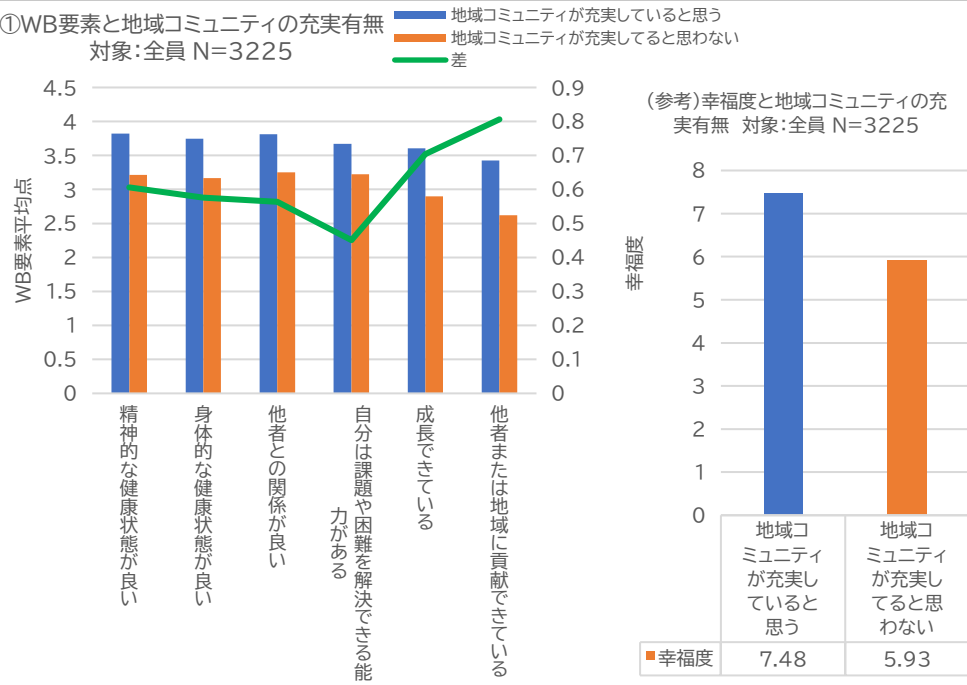
各活動別



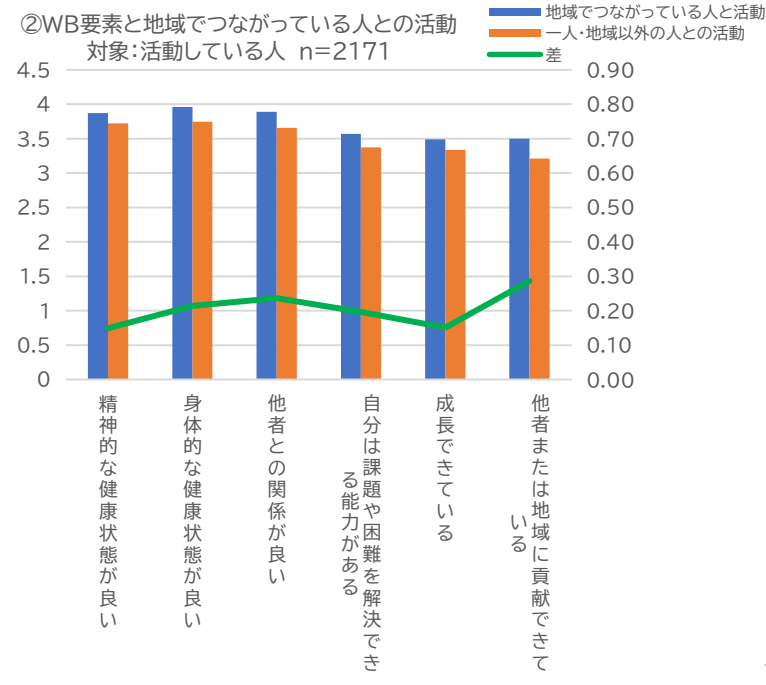
■現在の活動あり ■現在の活動なし ■現在の活動あり ■現在の活動なし ■現在の活動あり ■現在の活動なし

(仮説)地域コミュニティが充実していると思う人は、WB要素のなかで特に「他者との関係」、「地域への貢献」、「自己効力感」、「成長実感」についてポジティブに感じている傾向が高い。また、地域でつながっている人と活動している人も同じ傾向がある。
 (結果)地域コミュニティが充実していると思う人は、そうでない人よりも全WB要素が高く、特に「他者・地域への貢献」の差が大きく①、また、幸福度においても充実していると思う人がより高い結果(参考)となった。地域でつながっている人と活動している人も同じ傾向があり②、**地域コミュニティの充実・地域での活動は、WB要素、幸福度に良い影響を与えると言える。**

①WB要素と地域コミュニティの充実有無
 対象:全員 N=3225



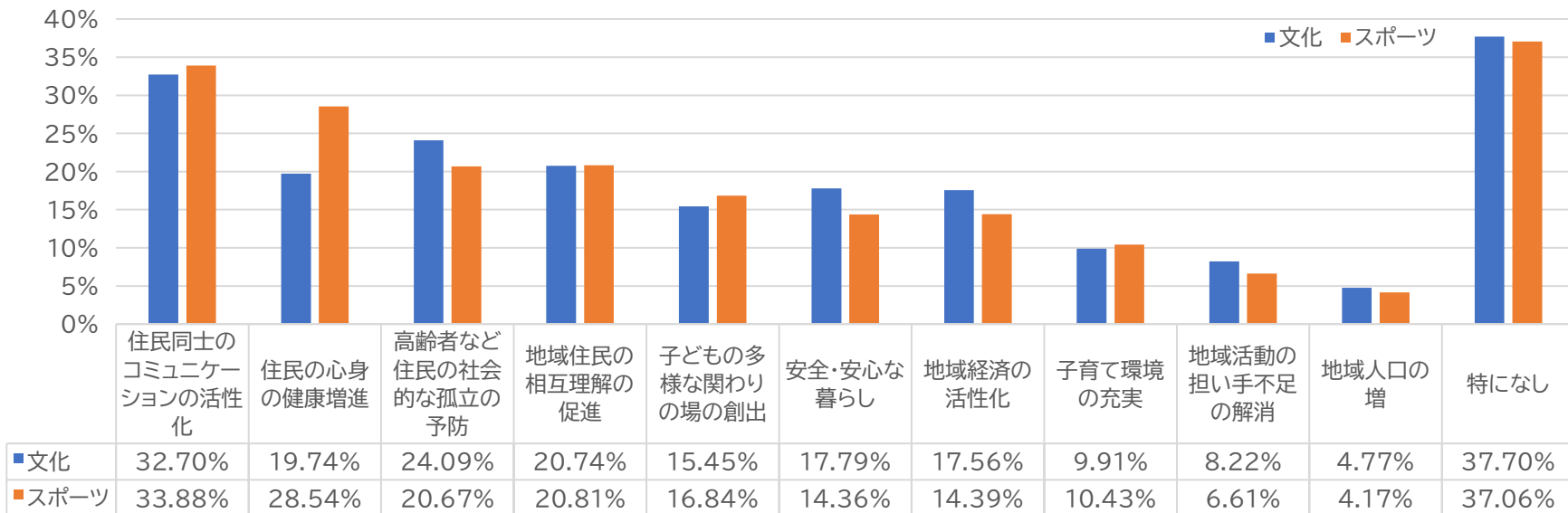
②WB要素と地域でつながっている人との活動
 対象:活動している人 n=2171



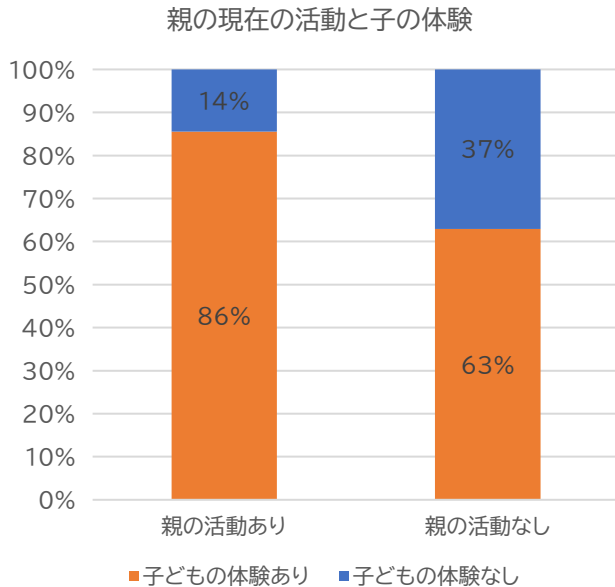
(仮説)地域コミュニティによる文化芸術・スポーツ活動が地域課題の解決に繋がっていると多数の人(8割以上)が思っている。

(結果)地域コミュニティによる文化芸術・スポーツ活動が何かしらの地域課題の解決に繋がっていると思う人は約63%となった。「住民同士のコミュニケーションの活性化」、「住民の心身の健康増進」、「高齢者など住民の社会的な孤立の予防」の順に高く(文化芸術・スポーツ合計)、**おおむね多数の人が地域コミュニティによる文化芸術・スポーツ活動が何かしらの地域課題の解決に繋がっていると思っていると言える。**

○町内会や住民によるグループなどの地域コミュニティによる地域に根差した活動は、地域にどのような効果があると思いますか。(いくつでも複数回答可) N=3225

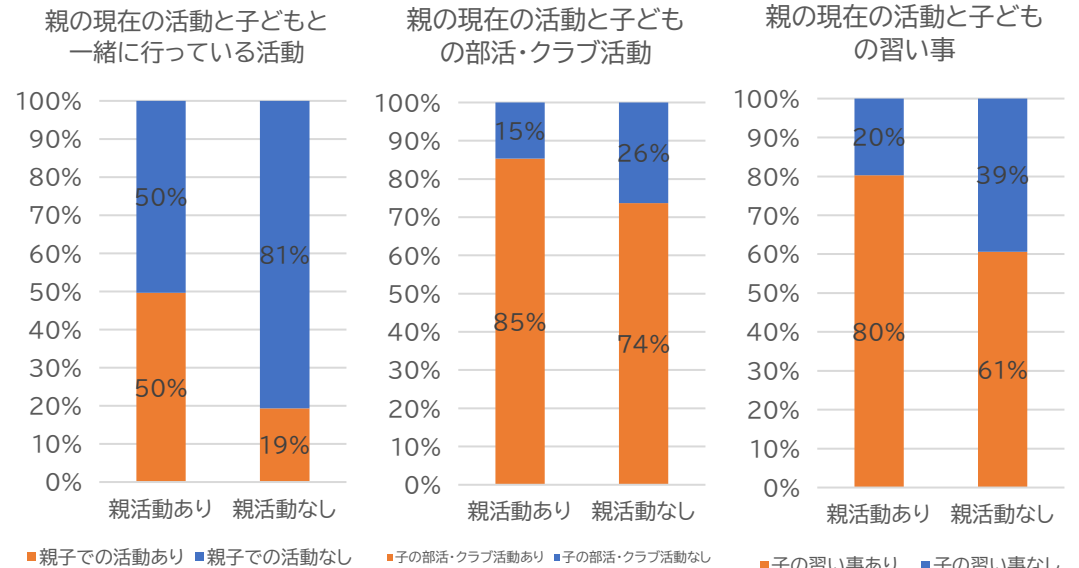


(仮説)文化芸術・スポーツ活動を継続的に行っている人ほど、自身の子供へ体験の機会を提供している。
(結果)親が定期的な文化芸術・スポーツ活動を行っている場合、子どもがいずれかの体験を行っている割合は86%、活動を行っていない場合は、63%と23%の差があったことから、親が定期的な文化芸術・スポーツ活動を行っている場合、子どもの体験も実施割合が上がると言える。



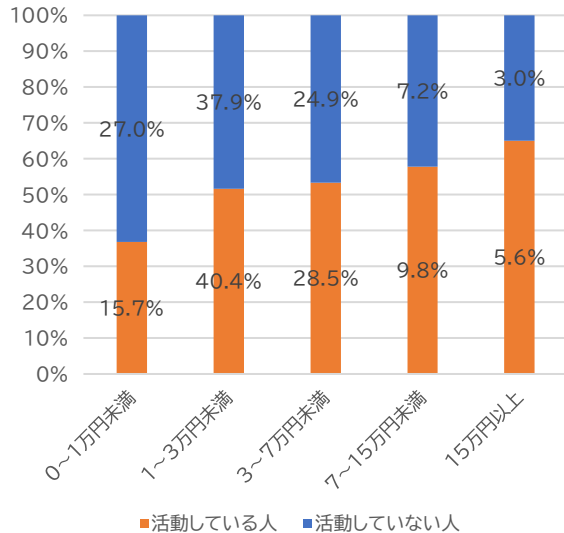
n=1663 (子どもがいる回答者数)

各活動別

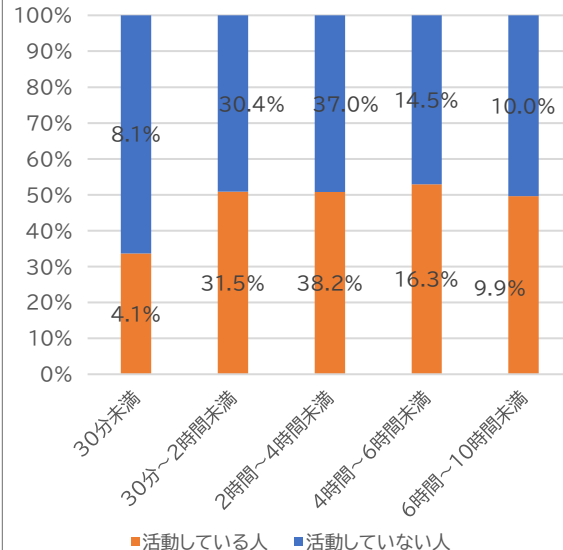


※:親の活動がないが、親子での活動ありの回答者(左下図の19%)は、自主的に行っている定期的な活動はないが、子ども主体と一緒に鑑賞/観戦、イベント参加等を行っていることが推測される。

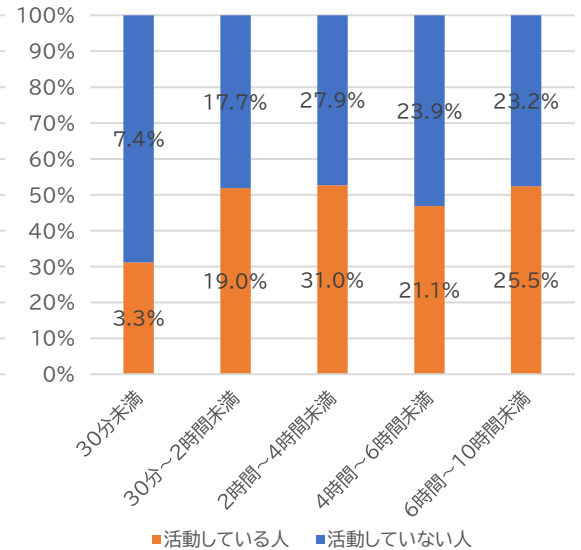
(仮説)文化芸術・スポーツ活動を継続的に行っている人ほど可処分所得・可処分時間が多い。
(結果)可処分所得の1万円未満と可処分時間の30分未満で、活動をしていない人の割合が高く、それより多いと若干活動している人の割合が高いが、所得・時間が増えることと活動有無の割合の関係は見られなかった。一定の可処分所得・時間があれば、それ以上増えることが活動の有無に大きな影響を与えないことが推測される。

定期的な活動の有無と可処分所得


※各項目に記載した数字は「活動している人」「活動していない人」における割合

定期的な活動の有無と可処分時間(平日)


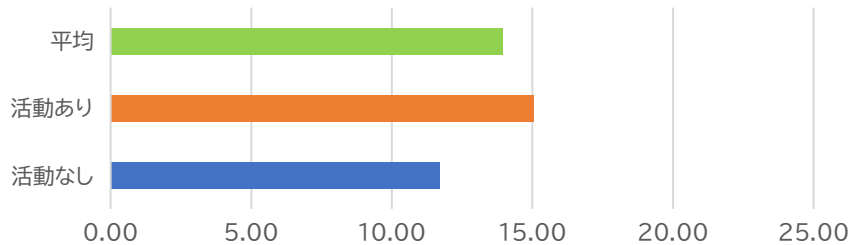
※各項目に記載した数字は「活動している人」「活動していない人」における割合。また、可処分時間が10時間以上の回答は集計から除外

定期的な活動の有無と可処分時間(休日)


N=3225

(仮説)文化芸術・スポーツ活動を継続的に行っている人ほど、WHO-5の合計点数が高い
(結果)合計点数では、いずれかの定期的な活動を行っている場合は15.04、行っていない場合は11.72と差が生じた。0または1の回答があった割合は、いずれかの活動を行っている場合は24.9%、活動を行っていない場合は47.7%となった。このことから、定期的な文化芸術・スポーツ活動は精神的健康状態に良い影響があると言える。

○定期的な活動の有無とWHO-5の合計点数(高い方が良い) N=3225



	活動なし	活動あり	平均
■合計	11.72	15.04	13.95

(上図合計の各項目内訳)

	活動あり	活動なし	差
明るく、楽しい気分で過ごした。	3.13	2.50	0.63
落ち着いた、リラックスした気分で過ごした。	3.26	2.62	0.63
意欲的で、活動的に過ごした。	2.88	2.16	0.72
ぐっすりと休め、気持ちよくめざまた。	2.86	2.27	0.59
日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった。	2.91	2.15	0.76

○定期的な活動の有無とWHO-5における0または1の回答がある割合(低い方が良い)

N=3225	活動あり	活動なし	全体
0または1の回答がある割合	24.9%	47.7%	32.4%

○WHO-5とは

- ・世界保健機関が推奨する精神的健康の測定指標で、個人の精神的なウェルビーイング:心の健康状態を簡単に評価できる。
- ・5つの質問から構成され、過去2週間にわたる気分や日常活動におけるポジティブな感情の経験を0~5の6段階で評価する。
- ・回答の合計で算出され、範囲は0から25点。0点はQOLが最も悪い状態不良であることを示し、25点はQOLが最も良い状態を示す。

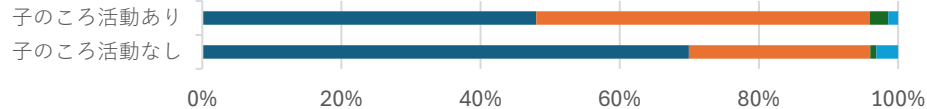
(仮説)地域の環境(コミュニティの充実、施設までの距離、活動の場・機会の充実)や、こどものころの体験が充実していない人ほど、「行動変容ステージモデル」における「無関心期」に近くなる ※対象:活動をしていない人
 (結果)地域の環境(コミュニティの充実、施設までの距離、活動の場・機会の充実)、こどものころの体験のいずれにおいても、充実していると思っている/体験があるほど「無関心期」の割合が減り、関心期の割合が増えた。このことにより、地域の環境、こどものころの体験が充実するほど、活動への関心が高まると言える。一方、施設までの距離に関しては明確な傾向は見られなかった。

○行動変容ステージモデルとは、人々が習慣を変える際に経る5つの段階を説明するフレームワーク

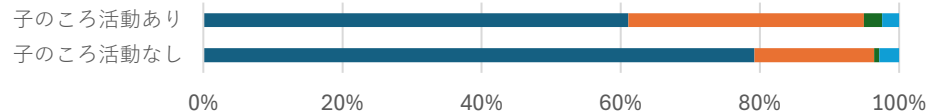
- ・無関心期:行動を変える必要性を感じてない。情報への関心も薄い。
- ・関心期:行動変容の必要性を認識し始める。実行には移していない。
- ・準備期:行動を変える意志があり、具体的な計画を立て始める。
- ・実行期:行動変容を開始している。継続する努力をしている。
- ・維持期:行動変容が定着し、長期的に維持されている。

①こどものころの体験と行動変容ステージモデル

文化芸術 n=1855



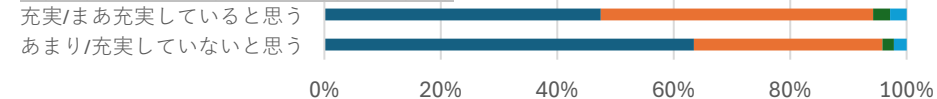
スポーツ n=1462



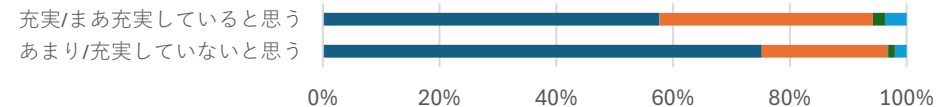
■ 1. 関心がなく、活動予定もない ■ 2. 関心はあるが、活動予定はない ■ 3. 関心があり、活動の準備を始めている ■ 4. 関心があり、活動を始めた

②地域コミュニティの充実と行動変容ステージモデル

文化芸術 n=1027(どちらも言えない除く)

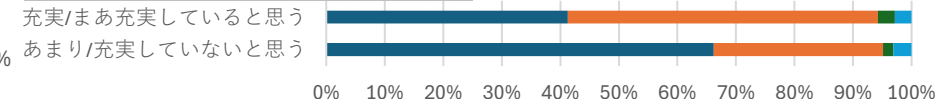


スポーツ n=789(どちらも言えない除く)

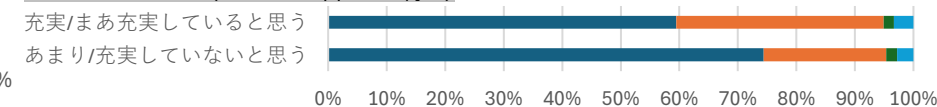


③生活圏で文化芸術・スポーツに触れる場・機会の充実と行動変容ステージモデル

文化芸術 n=1028(どちらも言えない除く)

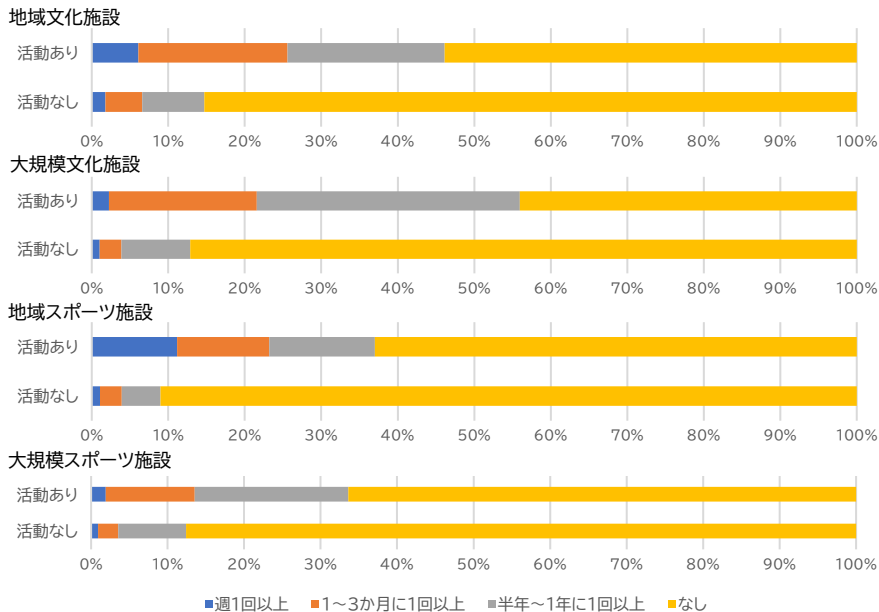


スポーツ n=799(どちらも言えない除く)



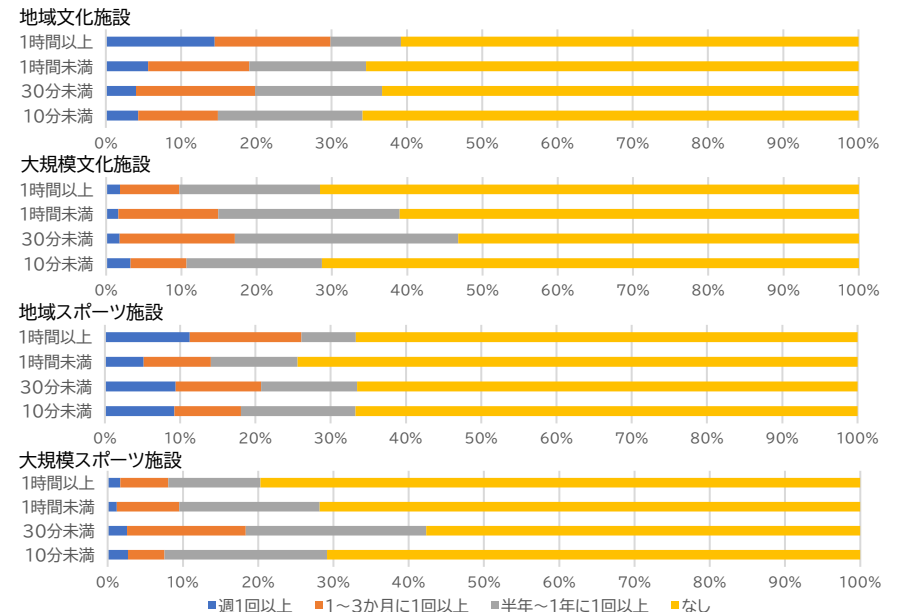
(仮説)施設への来訪頻度が多い人ほど、文化芸術・スポーツ活動を継続的に行っている(活動を継続的に行っているほど施設来訪頻度が高い)。また、来訪経験と施設までの距離には相関関係がある。
 (結果)活動の有無と施設の来訪頻度については、活動を継続的に行っているほど施設来訪率・頻度が高いと言える。一方、自宅から施設までの距離と来訪頻度については、近いと来訪頻度が多いという明確な傾向は見られなかった。

○活動の有無と施設の来訪率・頻度(直近1年間)



○自宅から施設までの距離と来訪率・頻度(直近1年間)

N=3225



※文化施設の活動は文化鑑賞・活動が対象、スポーツ施設の活動はスポーツ観戦・活動・支援が回答対象